

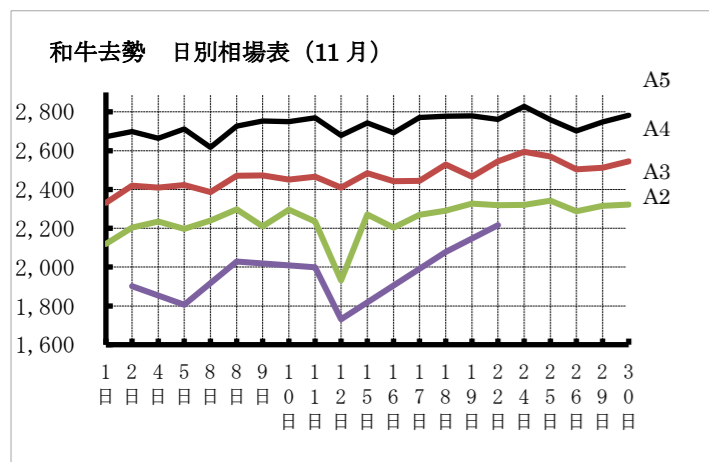
月刊しばうら

2021年12号

牛肉営業部

<11月の相場動向>

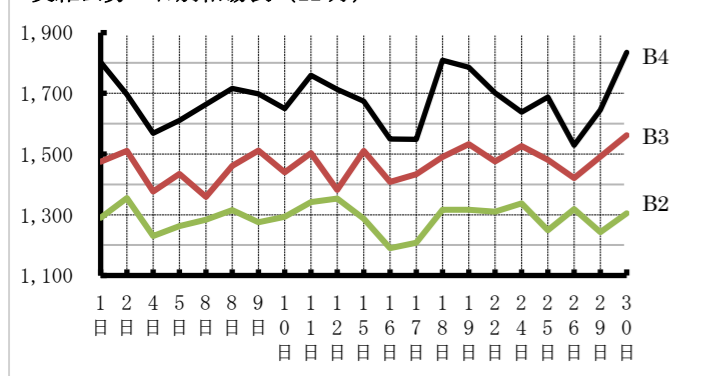
新型コロナウイルスの感染拡大が抑え込まれており、外食の営業規制が解除されているが、外食需要の完全な回復には程遠い。和牛については冷凍保管事業と輸出により下支えされた展開であるものの、前年より下げの展開となった。また、小売り・量販店も前年の巣ごもり需要から一巡しており、原油価格の高騰や経済の先行き不安から食肉消費の盛り上がりが見られず、交雑種についても前年と比べ下げの展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,740円	-27円 99.0%	+22円 100.8%
A4	2,477円	-41円 98.4%	+138円 105.9%
A3	2,249円	-73円 96.9%	+106円 104.9%
A2	1,917円	-78円 96.1%	+101円 105.6%

交雑去勢 日別相場表 (11月)



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,685円	-30円 98.3%	-24円 98.6%
B3	1,474円	-133円 91.7%	+10円 100.7%
B2	1,292円	-179円 87.8%	+26円 102.1%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,022円	+261円 134.3%	-1円 99.9%

<12月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、10月の輸入量は前年同月比8.3%増の5万5,200tで、うちチルドは4.0%減の2万505t、フローズンは前年同月比17.3%増の3万4,695tとなった。

チルドは米国産がどのパッカーも高値で、特にチャックロールの相場が上がった。フローズンについては豪州産からのオファー数量が少なく高値が継続し、豪州産・米国産以外の導入の動きがみられた。

農畜産業振興機構によると11月の輸入通関実績は5%減の4万7000tで予測している。

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,877	10,701	64.3%
	米国	11,205	8,990	124.6%
	その他	2,423	1,678	69.3%
	合計	20,505	21,369	96.0%
フローズン	豪州	16,406	11,820	138.8%
	米国	9,253	12,945	71.5%
	その他	9,036	4822	187.4%
合計	34,695	29,587	117.3%	

出典：食肉速報

単位：t

<12月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による12月の出荷予測頭数は、全体で前年比104.9%の10万2,300頭で、品種別にみると和牛は8.6%増の5万1,400頭、交雑種は9.8%増の2万3,500頭、乳用種は5.9%減の2万5,800頭と予測している。

東京食肉市場の12月のと畜頭数は7,800頭を予定しています。

<12月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの感染拡大によって、生活様式や消費行動の変化などがあり、コロナ前の状況には程遠いものとなっている。景気の先行き不安や食品・光熱費の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しく、出荷頭数も前年より多いこともあり、例年以上に相場が高騰する状況にはない。

和牛については冷凍保管事業や輸出需要などで、下支え価格にプラスアルファという展開を、交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持されるといった展開を見込んでいる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750~2,900	B4	1,700~1,800
A4	2,600~2,700	B3	1,550~1,650
A3	2,300~2,500	B2	1,400~1,500
A2	2,000~2,200		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

10月の全国と畜頭数は、前年同月比4.3%減の141万7,009頭。また10月の豚肉通関数量は7万7,929t（前年同月比7.5%増）と前年同月を上回った。前月比でも4.9%の増加。内訳はチルドが3万3,556t（4.4%減）、フローズンは4万4,373t（18.7%増）となった。

2020-2021年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
比	96%	108%	111%	87%	96%	101%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

10月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,277	99.8%	デンマーク	7,493	124.8%
カナダ	15,126	86.3%	スペイン	13,974	200.9%
メキシコ	2,150	169.0%	メキシコ	7,047	89.5%
			アメリカ	2,040	45.8%
			カナダ	2,775	85.6%
合計	33,556	95.6%		44,373	118.7%

単位：t

<11月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	72,200	511	485	774
2日	74,900	507	484	1,054
4日	73,600	525	494	1,005
5日	71,700	516	498	1,070
8日	67,500	523	491	838
9日	71,800	514	479	988
10日	68,100	487	422	836
平均	71,400/日			938/日

11月に入り出荷頭数は徐々に増加傾向になった。3日が祝日だったため、全国と畜頭数は7万頭を上回り推移した。飲食店の営業時間制限も緩み、外食や観光などの需要も徐々に回復してきたことから相場も持ち合いの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	68,700	471	435	777
12日	68,900	460	403	1,032
15日	66,000	460	406	804
16日	68,800	463	439	926
17日	68,300	491	458	692
18日	70,000	478	438	789
19日	71,600	482	464	992
平均	68,900/日			859/日

相場は徐々に下落し上物相場は500円を割り込む軟調な展開となった。一方で全国と畜頭数はそれなりに増加傾向となり7万頭前後で推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	70,100	476	445	837
24日	71,200	475	456	1,021
25日	70,500	493	460	949
26日	71,200	489	462	1,123
29日	66,700	506	468	907
30日	68,600	512	489	915
平均	69,717/日			959/日

11月も後半となり、朝晩の冷え込みも強まってきた。本格的な鍋物需要の高まりからスライス系商材の引き合いが強まり始めた。祝日による補充買いなどもあり相場も徐々に持ち直す展開となった。

<12月豚枝肉相場見通し>

農林水産省による12月の肉豚出荷予測では149万7,000頭（前年比98.5%）と予測している。当市場の12月集荷予定頭数は1万9,500頭、1日あたりでは約886頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると12月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万4,500t（同104.2%）、内訳は冷蔵輸入量が3万5,000t（同95.0%）、冷凍輸入量は3万9,500t（同114.1%）と予測。

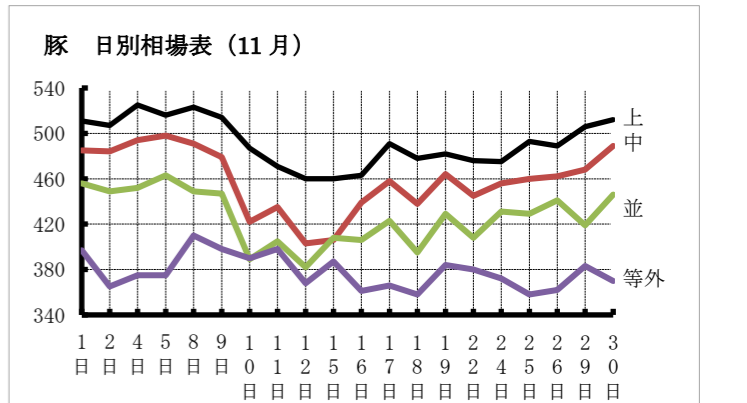
冷蔵品輸入量は北米における現地価格の高止まりの影響などから、前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は国内在庫が高い水準であったことなどにより、前年の輸入量が少なかったことに加え、中国の買い付けが弱まったことにより、相場が下がった欧州産の輸入量が増えていることなどから、大幅に前年同月を上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年12月は年末にかけて末端の販促も鶏肉・牛肉にシフトする傾向があるが、今年は輸入牛肉の価格高騰や輸入チルドポークの入荷が不安定なことにより、国産豚肉相場は底堅く推移することが予想される。また新型コロナウイルス感染症が収束している中、年末年始は帰省する人が増え、地方の外食や量販店などは盛り上がりも期待される。

供給面では肉豚の成育が順調となり出荷頭数が本格的に増える時期だが、一部地域で呼吸器系の疾病により例年のような急激な増加とはならない可能性があり、出荷頭数と荷動きのバランスによって相場が推移することが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は530円前後、中物平均価格500円前後の展開と予測する。



東京都港区港南 2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-9740-3111 FAX:03-3472-0127